

吉野ヶ里こども園の教育・保育とは！？

—園生活に馴染む5月、流れる保育、応答的ふれあい！—

園長 山崎立哉

4都府県では、4月25日～5月11日まで3度目の緊急事態宣言が発出され、佐賀県でも1日最大の38名の陽性者が確認されました。依然として新型コロナウイルス感染症は猛威を振るい続けています。バス旅行は残念ながら延期とし、花祭りも子どもたちだけの参加としました。保護者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、引き続き感染症対策を徹底していき、子どもたちの園内での生活には影響がないように心掛けて行きたいと思えます。

さて、5月を迎え新入園児の子ども達も園生活にようやく馴染んでくる頃です。0,1,2歳児の子どもたちは、出会いの保育も終わり保育者を「こども園のお母さん」として受け入れ始めたことと思えます。それができると子どもたちは、園内で安心して遊び始めます。まず朝登園して来てオムツ交換をして、保育室内で好きな遊びが始まり、9時過ぎから戸外遊びへ園庭に出ます。また、戻って来てお茶を飲み室内で遊び、昼食をそれぞれに食べます。0歳児は1対1で、1歳児は1対2～3で、2歳児は1対3で食事をします。その時他の子どもは遊んでいて順番が来たら食事をします。食事が済んだ子どもから順に午睡をします。14時半頃から起こし始めオムツ交換をしておやつを食べます。おやつを食べ終わった子どもから好きな遊びを始め、保護者のお迎えが来られるまで続きます。

この1日の生活の流れがスムーズにいくように保育者は心がけています。子どものやりたい遊びが出来るように、好きな遊びが出来るように、食事もしっかり食べれるように、お昼寝もぐっすり眠れるように等、配慮をしています。この保育を流れる保育と呼んでいて、子どもたちの傍に寄り添い一人一人の声を聴いて、子どもを待たせない、子どもの活動を止めない、子どもの主体的な活動を尊重する保育を心がけています。

この流れる保育によって、子どもたち一人一人の生理的欲求を満ちし、応答的にふれあうことで情緒的な絆が形成されていきます。これから子どもたちは、こども園生活に馴染んで保育者と気持ちを通わせ、身近な周りの環境との関わりを通して健やかに伸び伸びと育っていくことでしょう。